

# 平成30年度 会派調査研究報告書

(視察先1か所につき1枚)

会派名	新 生 ク ラ ブ
出席者	秋山祥司 功刀正広
事業名	小中一貫教育 について
事業区分	①研究研修 ②調査

## 1. 葦崎市での課題と研修・調査の目的

本市においては、平成28年度から「少子化・人口減少に対応した活力ある学校推進事業」を行い、ICTを活用し小中連携など小規模校の活性化を図ってきた。  
小中一貫教育を行っている茅野市の取組みを参考にすることにより本市の小小連携や小中連携の取組みの一助に繋げたい。

## 2. 実施概要

実施日時	平成31年 2月 7日(木) 13:30 ~ 15:00
視察先	茅野市
担当部局	教育委員会 学校教育課 幼児教育課

報告内容

茅野市の小中一貫教育とは、21世紀を「生きる力」を育むことを目指し、小中学校の9年間を通じた教育目標・構想を定め、一貫した教育を展開するものであった。  
そこで、茅野市では4つの柱を設けて小中一貫教育の実現に向け取り組んでいた。  
柱1：すべての教育活動の基盤として、読書・図書活動を大切にしている。  
柱2：子どもの発達段階を考慮し、小4までのベーシック期、中1までのグロウアップ期、以降のジャンプアップ期に区分し、それぞれの区分期の特徴・課題を踏まえた教育を展開している。  
柱3：小中で共通の教育観に立ち、子どもたちが自分で考え、わからない点や困った点は友達の意見もよく聞いて考えを追求し、ともに学力を高め合う学びへの転換を図っている。  
柱4：「縄文科」「心の教育」「外国語活動・英語教育」「ICT教育」等に力を入れている。  
茅野市では「心のよつばのクローバープラン」を策定し、いじめや不登校などの最近の学校が抱える課題に対し、心の教育の充実を図っていた。コミュニティースクールの促進にも力を入れ、地域の方を講師に迎え子どもたちに授業を行うなど地域と連携を密にした学校教育が行われていた。また、小中一貫教育のみならず幼保小連携教育も実践されており、幼保園と小学校の先生が定期的に会い、保育・教育についての理解を深める職員連携を行っている話は興味深かった。

新生クラブ2名、蕪政クラブ3名の5名および茅野市教育委員会より5名の計10名が出席。伊藤玲子市議会副議長より歓迎挨拶に続き、蕪政クラブ会長より挨拶をした。学校教育課長はじめ5名の担当者から小中一貫教育、幼保小連携教育について資料を基に丁寧な説明をいただいた。その後、質疑応答を行い、最後に当会派会長から謝辞を述べ散会となった。

## 2. 考察（これらの取り組みを蕪崎市にどう活かせるか）

本市でもこれまでにICTを活用し小中連携や小中連携を図ってきたが、茅野市であったように職員の連携を密に図っていくことや幼保小連携協議会（全園長・小学校長・担当職員）などを設立し、幼保小連携教育の推進も必要であると感じた。また、コミュニティースクールなど地域とのかかわりも大切に、家庭・学校・地域での連携を強め、子どもたちの育成にも力を入れていきたい。



感想（まとめ）  
・ 市政に活かせること